

令和 7 年 第7回

当別町教育委員会定例会議事録

当別町教育委員会

令和 7 年 第 7 回 当別町教育委員会定例会 議事録

日時 令和 7 年 6 月 2 5 日（水） 午後 2 時 0 0 分

場所 当別町役場 3 階中会議室

出席者 三澤教育長、武岡教育長職務代理者、小林委員、佐々木委員、大畑委員

出席職員 山田教育部長、高田学校教育課長、川田学校教育課参事、村上社会教育課長

傍聴者 なし

【開会宣言】 教育長	ただ今、委員全員が出席しておりますので、これより令和 7 年第 7 回当別町教育委員会定例会を開催いたします。
【傍聴確認】 教育長	傍聴の方はいらっしゃいますか。 （「いません」の声） 傍聴がおりませんので、早速議事に入らせていただきます。
【議事日程】 教育長	日程につきましては、各委員に配付しております日程表に基づきまして議事に入ります。
【日程第 1】 教育長	日程第 1、協議第 1 号、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、事務局より説明をお願いします。
教育部長	協議第 1 号、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、1 頁をご覧ください。 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条に基づく、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、委員会の協議を求めるものであります。 詳細につきましては、学校教育課長より説明いたします。
学校教育課長	それでは、説明させていただきます。 議案については、1 頁になります。報告書の素案については、別冊でお配りしておりますので、その別冊をもって説明させていただきたいと思います。 まず、別冊の 2 頁をお開きください。 目次になります。報告書につきましては、第 1 章、点検及び評価の概要、第 2 章、教育委員会の開催状況、第 3 章、当別町教育推進計画重点的取組の点検及び評価という構成となっているところでございます。 次に、3 頁の第 1 章、点検及び評価の概要について、でございますが、前年度と同様の作りになってございます。また、本日の定例会において皆様方からのご意見をいただき、反映させた中で外部評価委員のご意見をいただく予定にしております。 また、外部評価委員につきましては、昨年までの委員のほうから交代を願う申し出がございましたので、改めて外部評価委員を選定した中で、対応させていただきますのでよろしくお願いします。

続きまして4頁をご覧ください。第2章、教育委員会の活動状況について、でございますが、教育委員会会議の開催状況を記載しております。令和6年度に関しましては、報告案件は13件、議決案件が23件、協議案件が13件で、5頁から7頁に案件を一覧表にして掲載しているところでございます。

続きまして、8頁目をご覧ください。令和6年度の定例会以外の活動状況を掲載しております。会議が5件、研修が6件、行事が13件ということで、それぞれ委員の皆様方に参加をいただいております。

続きまして、9頁をご覧ください。第3章、当別町教育推進計画重点的取組の点検及び評価でございますが、9頁には目次と推進計画を掲載させていただいております。10頁から18頁には、点検項目別の重点課題について、推進計画の重点取組みごとに、具体的な取組、達成状況、課題と今後の対応方法の順に掲載させていただいているところでございます。

それでは、10頁をご覧ください。

はじめに点検項目の学習指導について、でございますが、10頁から13頁にまとめました。

学習指導に関しましては、重点課題として、主体的・対話的で深い学びの授業改革の推進を行うために、学校側で5つ、教育委員会側で5つの課題に対して取り組みを実施したところでございます。

報告書では、ご覧のとおり、大きく10に分けて取り組みを掲載させていただきました。また、達成状況に関しましては、達成に向けた進展があったというような形で、評価をさせていただいております。また、授業改革、授業改善やICT有効活用のための指導・助言と、とうべつ未来学に係る学校への支援や家庭学習の習慣の定着に課題が残ったと考えているところでございます。

次に、14頁、15頁をご覧ください。

点検項目の生徒指導について、でございます。重点課題として、いじめ未然防止・不登校支援の充実を行うために、学校側で5つの項目、教育委員会側で5つの課題に対して取り組みを実施したところでございます。

報告書では、7つの具体的な取り組みを取り上げさせていただきました。

達成状況に関しましては、達成に向けた進展があったというような形で評価させていただきつつ、児童生徒への社会的支援のために、校内外の支援センターによる支援の継続やメタバースを活用した不登校支援の取組みなどの検討が必要と考えていたところでございます。

次に、16頁、17頁、18頁になります。

地域と共にある学校に関して、でございますが、重点課題としては、地域一体となった特色ある学校づくりの推進を行うために、学校側で5つ、教育委員会側で5つの課題に対して取り組みを実施したところでございます。

報告書では、8つの具体的な取り組みを取り上げさせていただいております。

達成状況に関しましては、達成に向けた進展があったということで評価をさ

せていただきつつ、学校のニーズ把握や関係機関との連携、図書に関しましては、図書館の利用者だとか、貸出冊数の増加、体験学習や異世代交流の機会提供などにも課題が残ったと考えているところでございます。

これら、まとめたものについて、事前に教育委員さん方に意見を頂戴したところでございます。お配りしましたペーパーについて、お話しさせていただきたいと思います。

小林委員さんのほうから、事前にいただいたものになります。

まず、1 番目、11 頁の部分でございます。AI ドリルとか ICT 機器の利活用として、ミライシードや MEXCBT の活用日数が前年度実績の 2 倍近くになっていることについて、児童生徒の学力向上や先生の負担軽減にどの程度効果があったのかというご質問をいただきました。

ここの部分につきましては、学びの個別最適化により、令和 6 年度の全国学テにおいて、中学校の国語を除いた正答率の 30%以下の児童の割合が、全国平均より低いと表現しますけれども、要は、全国平均よりも少なくなったということですね。学力の底上げができたものと分析していたところでございます。

次に、2 つ目、11 頁のとうべつ未来学におけます探究活動の充実についてご意見をいただきました。道教委の北海道ふるさと教育・観光教育等推進事業により何か変化があったのかとのご質問をいただきました。また、とうべつ未来学講座のキャリア教育授業については、内容やお招きした人物等の取組みが児童生徒の将来を考えるきっかけ作りとして良いと思いますとのことご意見もいただきました。ありがとうございます。

こちらのほうの分析としましては、地域の観光資源の魅力を再発見する学習におきまして、生徒が自分ごととして課題を捉えられるような体験活動や人々の思いに触れる場面を設定したり、新たな課題解決の視点を得られるよう 1 人 1 台端末の共同編集作業を効率的に行うなど、探究学習の進め方について、指導の工夫が図られたものと考えているところでございます。

次に、3 番目の 12 頁の部分、5 番、家庭学習の充実・習慣化から、感性を育てる教育充実に関しまして、引き続き活動促進と充実について、ご意見をいただいたところでございます。

また、14 頁のいじめ未然防止、不登校支援の充実に関しましては、重要事項であることから引き続き支援を、とのご意見もいただきました。

また、16 頁のとうべつ学園の CS の活発化についての評価をいただきつつ、西当別側の活動の PR についても、ご意見としていただきました。これらについて、課題と承知しておりますので、取組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、17 頁の学校給食について、岩出山との学校給食交流について評価をいただいたところでございます。

それぞれ、貴重なご意見をいただきました。これらを踏まえまして、次年度以降の取組みを進めていきたいと思っているところでございます。

	私のほうからは、以上です。
教育長	先にご意見をいただきましたのが、小林委員さんでございましたけれども、他の委員さん方の中で、是非、ここはというところで、口頭で結構でございますので、ご意見ございましたら、お聞かせいただきたいと思います。
武岡教育長職務代理者	私は、ないと出したのですが、14 頁をご覧ください。生徒指導の項目の中の不登校支援の充実のところですよ。学校も教育委員会とも、起きた後にどうするかということの対応を書いているのですけれども、なぜ起きるのかというところの掘り下げが必要かなと思います。不登校になる一つは、特性によってなるお子さんもいますし、家庭環境もあると思います。もう一つは、学校の授業がつまらない、分からない。よって、だんだん学校に行きたくなくなるというお子さんがいることも事実です。そうすると、教育委員会になるのか、学校になるのか分かりませんが、他のところでは教職員の研修と出ていますけれども、子どもが楽しく学校に通える授業をどう作るかという項目が僕はあったらいいのではないかなと思います。というのは、他の国の例では、不登校がほとんどない国がけっこうあるのですね。学校へ行くのが楽しいって。なぜかというと、授業も楽しいし、学校へ行くと友達とみんな楽しく過ごせる。充実しているかどうかは、分からないけれど、学校に行くのは楽しいって。教育委員会の項目になるかどうか分からないけれど、まずは、先生方が事前の準備をしっかりして、どうしたら授業が楽しくなるのか。勉強が得意ではない子について言うと、やはり、話術中心というか一方的に話すような授業をやっていると、子どもは、後ろで寝ています、5 年生でも。では、どうするかというと、特別支援の先生方がよくやるのですが、とにかく、15 分刻みくらいに意識して、授業を切って、子どもの様子を見て、少し動的なものを入れたりとか、授業の工夫改善があると、そのクラスでは、みんな生き生きと学校に来るというようなことがあるものですから、話がまとまりませんが、授業の質の向上というか、子どもが楽しく学べるような、学びが 1 時間もつような授業をどう作っていくかという点でのアプローチがあってもいいのかなというふうに思います。
教育長	ただ今の授業づくりの件について、学校の中のことでございますので、指導主事、もしよろしければ、お答えいただければと思います。
川田参事	楽しい授業というところで 1 点、視覚による情報の伝達というのが必要かなと思います。聴覚から聞くだけではなくて、目で見えるというところから情報を得るということで、勉強が得意ではない子も救えるのかなと思いますので、そういった意味でも、ICT の利活用というのが今言われていますので、そのあたりの研修を進めて参りたいというふうに思います。
教育長	先生方は、やはり、授業の準備をいかにしっかりできるかということが非常に大きいかなと思ってまして、そういう意味でも、働き方改革をしっかり行うことで、その時間を本来の授業準備だったり、授業研究だったりというところに、きちっと還元できるような状況を作らなければならない、なかなか難しい。

	それが、1点。それから、私を感じることは、若い先生方をどうやって育てていくのかなというところが大切でございます。今の先生方は、若い時に、色々な指導方法について、先輩の先生方から、色々なアドバイスを受けて現在があるというふうに思っています。それに比べて、なかなか、先生方の数も減ってきておりますので、小さな学校からスタートできないという今の先生方の悩みもあるということだと思いますけれども、いきなり大きな学校に来る。そして、時間のなかで、追われながら授業研究をしていく時間をなかなかとれない。そういうことも含めて、やはり、授業の準備の時間をどうやってとるかということについて、教育委員会として働き方改革の意義というのは、非常に大きいと思っていますので、そこはしっかりと支援をしながら、技術的なことに関しては、やはり学校内でしっかり先生方、校長、教頭を含めて、教務の先生方が中心になって、研修を深めていくということが大事ではないのかなというふうに思います。
武岡教育長職務代理者	お話のあったICTが、非常に効果があっているのですが、不登校の子の実態を見ると、部活があるから来る、行事があるから来る、教科の勉強だけの時には来ない。その裏には、行っても分からないのですね。授業が分からない。とすると、その子たちをそこまで戻して授業をするということは、難しいのだけれども、その子たちの指導をどうするかというところは、積み上げの教科については、難しい部分があるけれども、理科とか、社会科については、工夫次第によって、子どもが興味を持つような授業ができると思います。学べるのは、特別支援の先生方の授業のスタイルというのは、すごく僕はすごく学べた。特別支援の先生って、ここまで子どものことを考えてやっているのだ。待てるのだとか。だから、この文章には載ってこないかも分からないけれども、時間のなかで、そういう視点でもう一回子どもたちの不登校を見直すということも、大事ではないかなと思っていました。
教育長	この件でも結構でございますし、別な頁でも構いませんので、ご意見ございましたら、お願いいたします。
武岡教育長職務代理	とてもすっきりとまとめてくださって、分かりやすかったです。ありがとうございます。
小林委員	これだけすぐにやってくれたらいいですね。
教育長	前は、1年越しのものが出てきて、年度をまたがっていましたよね。評価の年度がまたがると、なかなかピンとこない部分もありますよね。
大畑委員	ICTの関係で、10頁の最後の行、「旅行的行事のまとめ」これは、この前に視察に行ったときのクロームブックでまとめ、西当別中学校で見させていただいたのですけれども、この言い回しと言うか、旅行的行事というのが、宿泊だったりとか、そういうものが全部含まれるのかどうか。どの範囲で、言い回しは校外学習とか、そういう感じのほうがいいのかなとか思った。
教育長	この具体性が一般の方には分かりにくいのではないかとご意見だと思います。もっと具体的に書いた方がいいということですよね。

大畑委員	修学旅行のことなのか、宿泊学習とかもあるので。宿泊は、旅行とは言わないのですか。
教育長	一般的には言わないのですけれども、学校では、そのような専門用語として使うのですよね。それで、そのような言い方になっています。ただ、これはどうでしょうね。
川田参事	「修学旅行等の自主研修のまとめや」とかにしたらどうでしょうか。
大畑委員	少し何か加えたらいいかなと思いました。
教育長	そうですね。
大畑委員	あと、もう1点ですが、ICTの活用に向けたところですが、主人の情報なのですけれども、総合体育館の見学に小学生が来た時に、とうべつ学園は活発にクロームブックを利用して写真を撮ったりしていて、それで、昨日か一昨日に西当別小学校が来たら、何も持っていないという感じで、2校でやはり違う部分があるので、そういうところの統一性と言いますか、そういう使い方、具体的にこういうふうに学校ではなっているのかということ。学校によって違うのでしょうか。そこが気になった部分です。
教育長	せっかく、目標値を設定しているわけですから、そこに共通性が見いだせないということに対してのご意見だと思います。確かに、私ども、頻繁に授業を見させていただく中でも、やはり、授業の中でICTを活用している頻度だとか、それから、活用している中身だとか、そういうことも若干とうべつ学園のほうが、進んでいる状況の中で、なかなか、西当別小学校が追いついていないということはあるですね。
教育部長	朝学習だとか、そういった場面では、西当別小学校の利用率は、非常に高いということもある。やはり、使い方というのは、それぞれの学校でやってみて、いいところというのは、お互いで共有し合う必要があると思っておりますので、教育委員会が開催します職員向けの研修ですとか、当別教育研究協議会、先生方で集まって研究する会も持っていますので、そういった中で、もっと情報交換をして、こういう使い方があるよというのは、これからの課題として考えていきます。
大畑委員	これからのことだと思うので、さらに向上していけるように希望します。
武岡教育長職務代理者	今のことに関連して、子ども達は、当別に限らず、授業の中で先生よりもICTは上手に使えるようなレベルまでけっこういっている学校が多いと思います。その中で、最近気になるので、クロームブックを授業の復習に使っているケースがある。それは、クイズ形式でやる。習った中身について、どうだった。丸、ばつ、A、B、Cを選びなさい。子どもたちは、あつた、間違つた、残念。何点以上いったら合格。それで、次に進んでいってします。その間に、なぜ間違っていたのかという検証がない。そういうソフトがある。僕が行っているところでも頻繁に使うのだけれども、僕はすごい疑問を感じています。それを使いつつも、止めて、どうして間違ったかというような使い方をしていかないとICTに使われてしまって、単なるクイズ形式、ゲームになってしまう。これは

	本当に子どもの力が付いているのかなと。復習ができているのかなという感じがしている授業を最近いくつか見る。ここには載らないかも知れないけれども、ICTの授業を考える時には、本当にこれで、子どもたちに考える力だとかが付くのかということを一面では考えて取り組む必要があるなと最近思っています。
小林委員	それでいったら、ICTありきの空気というかが、一番良くなって、たぶん、ICTを使ってない方でも、今でも良い授業をする先生は、多分いると思う。結果、ICTは、どのようにして授業の幅を広げるかというところを代理は言っていると思う。ICTを使っているから良い先生だとか、そういう括りになりがちになる空気は、あまり良くなって、子ども達は、子ども達で勝手に使っているの、授業がなくても、調べものとか。そういう空気が多分、今、一番大事なかただけであって、授業の中での使い方というのは、今はすごく過渡期で難しいのかなと思う。代理が言われている中身をもっとこうというのは、理解できるのですけれども、それよりもまた先に丸ばつ形式で馴染ませなければならないというのがあるのかなという気がしていて、それよりも今当別町で進めているのは、タブレットを一杯触らせる機会を作って、自分達で体育館に持って行って撮ったりとか、そういう方向に、今、まずはやっていっているのかなと僕は理解していますけれども、それでいいのですね。
川田参事	確かに、導入段階のコロナ禍は、使うことが目的になって、まずは使ってみようという時代があった。ですので、今、話にあったようにICTを使えたら良い先生みたいな風潮があったのですけれども、コロナ禍が明けてからは、必要な知識や技能を習得するための道具ですよ。パソコンを使うのが有効だったら使いますし、紙でやるのが有効だったら紙でやりますし、要は、その1時間で学ばなくてはいけないことを習得するための道具として使うのがいいのか、使わない方がいいのかというような判断になっていますので、当別町でもそのような感じになっているのかなと思います。それで、前段にあったとうべつ学園は、私が見た4月からの感じですけども、記憶媒体としての使い方が上手いかなと思っています。カメラだとか、文章を保存したりだとかというのが、上手いかなと。逆に、西当別地区は、AIドリルであるとかの使用頻度がとうべつ学園の倍ほどあったりする。そういう使い分けの差が学校の、良い意味でいくと特色として出ているのかなと思いますので、今、話にあったとおり、あくまでも道具としてどう使うかという視点が大切になってきて、当別でもそこが大切にされているのかなと思います。
小林委員	16頁のことですけども、とうべつ学園のコミュニティスクールが活発になってきたことは、この報告ですごく分かるのですけれども、やはり報告なので、西当別のことも、ここには載せていただきたいのですけどということに関しては、アンサーを貰ってなかったのですけれど、どういう動きをしているのか知りたいのもそうなのですけれども、例えば、町内ごみ拾いとか何でもいいのですが、そういったことも含めてとかというの、一文があったほうが、と

	うべつ学園ばかりが、このコミュニティスクールが活発になってきている、熟議とか、それは知っているのですけれども、クローズアップされすぎている。あまり良くない評価になってしまう。
学校教育課長	分かりました。そこの部分については、少し加えながら、バランスを整えます。
教育長	他に、いかがでしょうか。
大畑委員	スクールソーシャルワーカーのことについて、質問していいですか。達成に向けて進展があったということなののですけれども、これは、具体的というか、どういう面で進歩があったのかなというところが気になりました。実際に活用した方、人を設置したのですよね。
教育長	ソーシャルワーカーは、今年の年度初めに心のコーディネーターを設置しました。
大畑委員	そこで、実際に利用したとかという情報は、聞くことはできるのか。
教育長	年度が違うので…。
大畑委員	そしたら、これからですよ。では、まだ分からないということですね。
教育長	でも、前年度の活用についても道の…。
学校教育課長	当別町独自の単独の予算によって、去年は、配置できなかった。予算はついていたけれども、人が見つからなくて1年間スクールソーシャルワーカーというものはいなかった。今年は、心のコーディネーターということで、配置して既に動いている。去年の報告書になっているので、ここの部分については、例えば、去年も今年もそうなののですけれども、道のスクールソーシャルワーカーの派遣事業という部分は、活用しておりましたので、その部分は、ここに書いてあるとおり、スクールソーシャルワーカーと連携した初期対応ということで、昨年度も、取組んでいるというような形です。なので、心のコーディネーターを今回新たな人がいますけれども、その部分については、来年度の報告書になります。
大畑委員	前々年度は、いらっしゃったということでしょうか。
学校教育課長	はい。5年度にはいました。
大畑委員	その時というのは、どうなのでしょう。活用していた方はけっこういらっしゃったということですか。
学校教育課長	かなり、活動はしていました。巡回をやっていたので、各学校に週1回それぞれ回ってやっていました。案件については、10件までは、僕は承知していますが、それ以上にあったはず。プラスアルファ、色々な関係機関につなげたりだとか、保護者と一緒に病院にも付き添ったりだとかということもやっています。
大畑委員	とてもいい活動というか、仕事柄、悩み、いじめ撲滅の面で、いじめられて情緒不安定になっている子の話であったり、学校の先生に相談しても対応してくれないというお話など、生で聞くことが最近あるのですよ。なので、そういうところをもっと活用しやすい環境といいますか、でもみんなもう知っていま

	すよね、そういうものがあると。
教育長	これは、たまたま去年の空白地帯の時の中身なものですから、道のスクールソーシャルワーカーを使うことになりますと、順番にあげていかなければならないこともあって、学校側は使いにくかったかなというものもあるのですが、今年については、前々年度のように学校を常に巡回しているので、非常に、学校の先生方の様子であったり、それから、教室の子ども達の様子だったりということも、細目に見て歩いています。その情報が、毎日、帰って来られると、報告書になって上がってきますし、それを、また学校側にも流していますし、それから、ソーシャルワーカー自体に学校側から特に何年何組の何という生徒に関して、よく見ていてほしいだとかということも…。
大畑委員	先生方から、そちらに相談することなのでしょうか。
教育長	それもあります。それから、親御さんが悩んでいるようなことがあったりすると、そちらの相談にも乗ったり、非常に幅広く動いて貰っています。
大畑委員	分かりました。
教育長	休憩します。 再開します。 他にございませんでしょうか。 (「ありません」の声) それでは、この件につきましては、皆様方から頂戴しましたご意見を今一度精査をさせていただきますして、中身に反映させて、そして、学識経験者にお渡しをして、点検評価をしていただくという方向でいきたいと思いますが、いかがでしょうか。 (「いいです」の声) それでは、そのようにさせていただきます。
教育長	以上で、令和7年第7回当別町教育委員会定例会を閉会いたします。

閉会 午後2時40分

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

当別町教育委員会 教 育 長

教育長職務代理者